
エッセイ「大人になって」

川越ふみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エッセイ「大人になって」

【Nコード】

N8929J

【作者名】

川越ふみ

【あらすじ】

お笑いエッセイ書いてみました。

(前書き)

小説ではなく、エッセイです。

子供の頃、大人の言っている意味が分からず理解出来なかった事が、自分が大人になった今になって、あの時のあれはああいう事だったのかとふと思い出し、ようやく理解する事がある。

あれは小学3年生の頃だった。同じクラスに池谷君（仮名）という男の子がいて、池谷君は『イケタン』という愛称でクラスのみんなから親しまれており、自分も仲がよかった。

その日もいつものように学校が始まるチャイムが鳴ると、担任の女の先生が教室に入ってきた。ふと、先生の顔に視線を向けると、いつもの先生とは違った雰囲気を感じられた。クラスのみんなもそれを感じ取ったのか、ザワついていた教室がその瞬間静まり返った。そして周りを通り見廻した先生は、静かに口を開き、こう言った。「池谷君は、今日から金木君になります」

ただ先生はそう言っただけで、後は何も言わなかった。もちろん、その理由さえも。今思えば、あれは両親の都合だったのだろうが、当時、小学3年生だった自分には、その先生の言っている意味がよく分からなかった。しかし不思議だったのが、なぜ池谷君は金木君になったのかという疑問を持たなかった事だ。ただ、「今日から金木君になるんだ」というストレートな解釈だけ。いや、疑問は一つだけあった。「あだ名も変わるのかな」という素朴な疑問。

金木君のあだ名を決めるのは簡単だった。池谷君だった頃のあだ名が『イケタン』だったから、金木君で『カネタン』。そのあだ名が浸透するのも早かった。数日か経つと、その男の子は池谷君ではなく、既に金木君になっていた。

そんなある日、金木君を呼ぼうとして、思わず「イケタン！」と口走ってしまった事があった。そう呼んでしまった後、しまった！と思ったが、時既に遅く、金木君をそつと見ると、とても寂しそうな表情をしていた。もちろん、池谷という姓から金木という姓にな

った理由はその時は分かつてはいなかったが、とても悪い事をしてしまったという気持ちがある時にはなぜかあった。恐らく、子供ながらに少なくともいい事ではないという事をどこかで感じ取っていたのだらう。そしてそんな出来事を今でも鮮明に憶えているという事は、当時、相当なインパクトがあったのだと思う。

思えばその頃の自分はとても純粹だった。疑うという事を知らずに物事を素直に受け取っていた。例えば、『欽ちゃんの仮装大賞』という番組で、入賞者に贈られる賞金を受け渡す際に、見やすくする為大きなボード状の物に『100万円』というように書かれてあり、それを渡すが、自分はそれを見て、100万円くらいのお金になると、あんなに大きなお札になるんだ。と思ったり、母親がスーパーで買ってきた卵をコタツで暖め、ヒナをかえそうとしたりといった具合だ。それから色々なものを見たり経験したりして大人になつていった自分だが、あの頃の純粹で素直だった気持ちを忘れず、これからも成長していきたいと思う。

(後書き)

くだらないエッセイをお読みいただき、ありがとうございました。
ご感想をいただけると嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8929j/>

エッセイ「大人になって」

2011年10月6日18時33分発行